

定期作況報告

平成18年7月
(7月20日現在)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

6月下旬：最高気温、平均気温は平年並みで、最低気温は平年よりやや高かった。降水量は平年並みであった（平年比84%）。日照時間は平年並みであった（平年比80%）。

7月上旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温は平年並みで、平均気温は平年より高かった。降水量は平年より少なかった（平年比7%）。日照時間は平年より極めて多かった（平年比259%）。

7月中旬：最高気温、平均気温は平年より高く、最低気温は平年より極めて高かった。降水量は平年よりやや多かった（平年比139%）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比76%）。

以上のことから、この1か月間（6月下旬～7月中旬）は平年と比較して、気温は高く、降水量は平年並みで、日照時間はやや多かった。

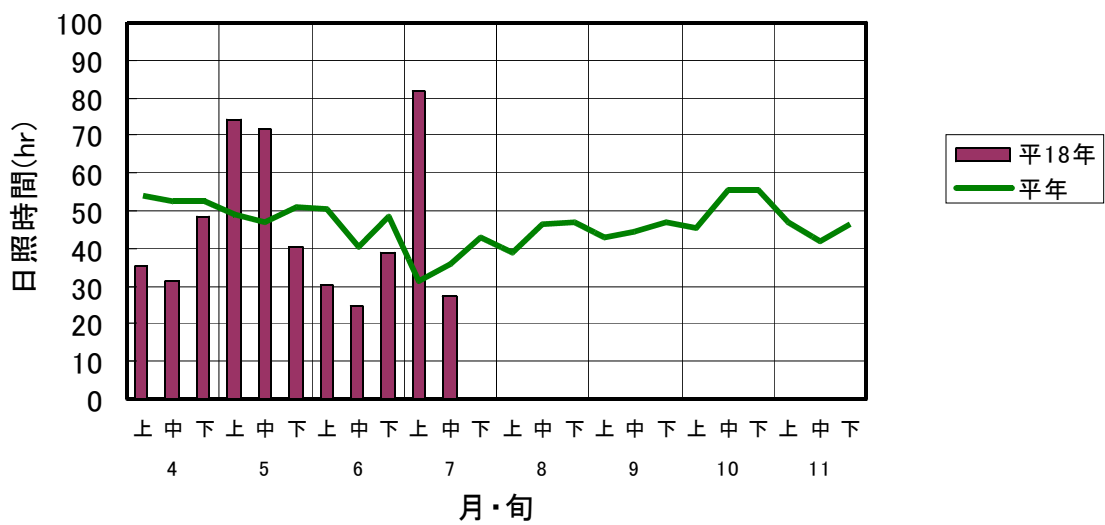
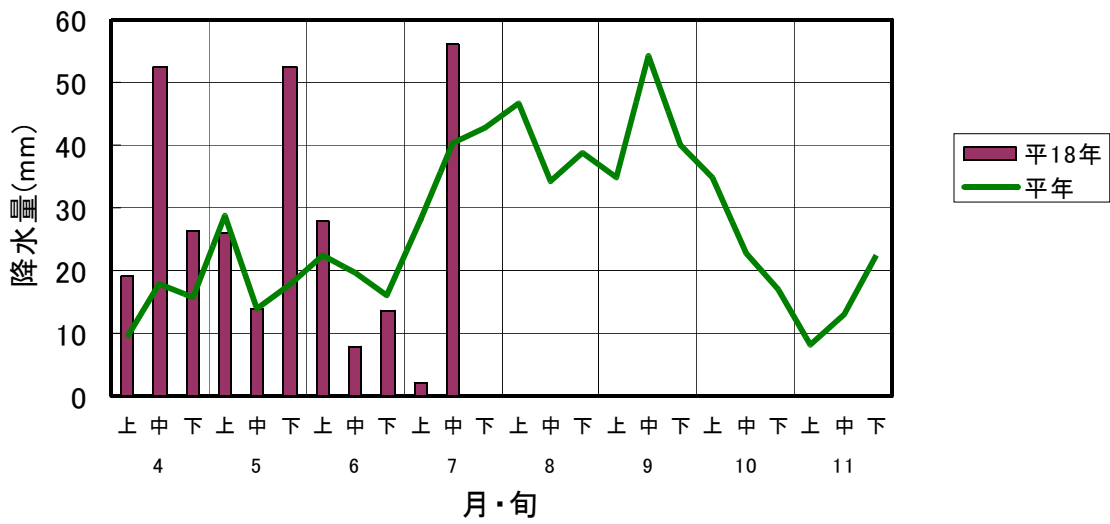
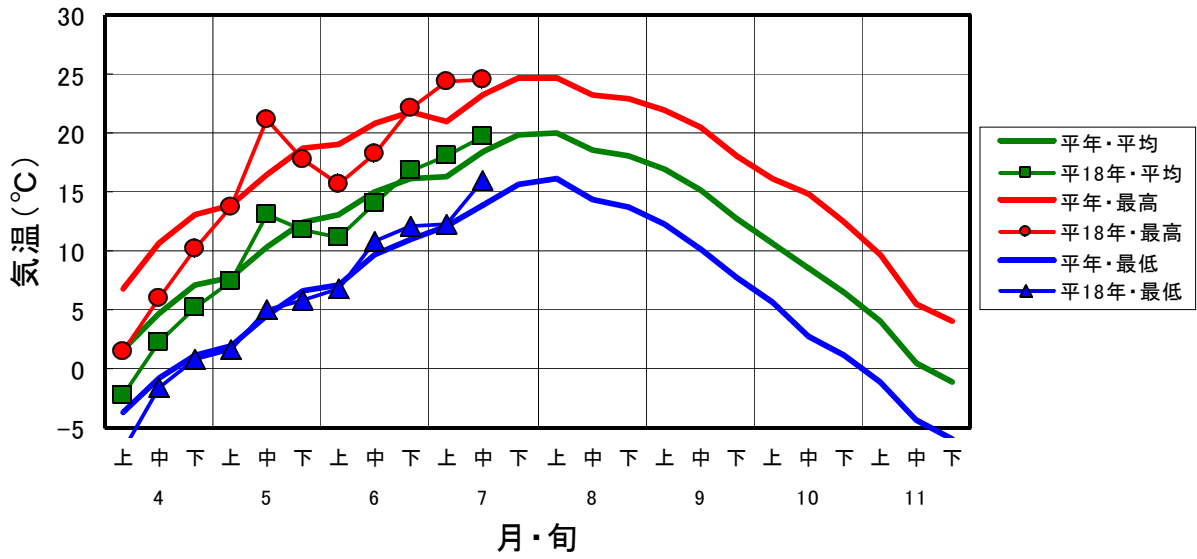
注）降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

気象表

項目 月旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	16.8	16.2	0.6	22.0	21.7	0.3	12.1	11.0	1.1
7月上旬	18.1	16.3	1.8	24.3	21.0	3.3	12.3	12.1	0.2
7月中旬	19.7	18.3	1.4	24.6	23.2	1.4	16.0	13.9	2.1
平均	18.4	16.9	1.5	24.0	22.0	2.0	13.6	12.3	1.3

項目 月旬	降水量（mm）			日照時間（h）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	13.5	16.0	△ 2.5	38.7	48.3	△ 9.6
7月上旬	2.0	28.1	△ 26.1	81.7	31.5	50.2
7月中旬	56.0	40.4	15.6	27.3	36.1	△ 8.8
合計	71.5	84.5	△ 13.0	147.7	115.9	31.8

注） 1）観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。
2）平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作況：平年並

事由：6月下旬以降、天候は回復傾向で、特に7月上旬には高温多照となったが、「タクネコムギ」は成熟期に達しておらず、「ホクシン」「ホロシリコムギ」も同様に成熟期は平年より遅れることが見込まれる。稈長は平年よりやや長く、生育は徒長気味で、「タクネコムギ」は一部で倒伏が発生している。穂数は平年並で、穂長は平年よりやや短い。

以上のことから目下の作況は平年並である。

調査項目	タクネコムギ			ホクシン			ホロシリコムギ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
稈長(cm) (7月20日)	102	94	8	90	83	7	105	97	8
穂長(cm) (7月20日)	7.0	7.6	△ 0.6	7.6	8.3	△ 0.7	7.8	8.3	△ 0.5
穂数(本/m ²) (7月20日)	822	839	△ 17	706	698	8	685	638	47

注) 平年値は前7か年中、「タクネコムギ」、「ホクシン」は平成14年(最凶)、15年(最豊)、「ホロシリコムギ」は平成11年(最凶)、15(最豊)年を除く5か年の平均。「ホクシン」の播種量は255粒/m²、その他の品種の播種量は340粒/m²。

2) 春まき小麦 作況：やや良

事由：6月の低温により、出穂期は平年より1週間程度遅れた。7月上旬を除き、日照は少なく経過しており、生育はやや徒長気味である。稈長は平年より長く、穂長は平年並で、穂数は多くなっており、生育量は確保されている。

以上のことから目下の作況はやや良である。

調査項目	ハルユタカ			春よ恋		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
出穂期 (月.日)	6.29	6.22	7	6.28	6.22	6
稈長(cm) (7月20日)	89	84	5	92	84	8
穂長(cm) (7月20日)	8.1	8.0	0.1	8.2	8.2	0.0
穂数(本/m ²) (7月20日)	535	495	40	588	478	110

注) 「ハルユタカ」の平年値は過去7か年中、平成12年(最凶)、平成17年(最豊)を除く5か年平均。「春よ恋」の平年値は過去5か年中、平成14年(最凶)、平成17年(最豊)を除く3か年平均。

3) とうもろこし 作 況：平年並

事 由：7月上旬～中旬が平年より高温に経過したことにより生育が回復し、草丈は平年並、葉数は平年をやや上回っている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目		ディアHT		
		本年	平年	比較
草丈(cm)	(7月20日)	125.8	124.0	1.8
葉数(枚)	(7月20日)	12.0	11.2	0.8

注) 平年値は前7か年のうち平成16年(最豊)、17年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 大 豆 作 況：やや不良

事 由：6月下旬の平均気温は平年並であったが、7月上旬以降は高温に推移し、日照時間も平年を上回った。生育はかなり回復したものの、主茎長、本葉数および分枝数は平年をやや下回っている。

以上のことから、目下の作況はやや不良である。

調査項目		トヨコマチ			トヨホマレ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
主茎長(cm)	(7月20日)	36.4	40.9	△ 4.5	30.6	34.4	△ 3.8
本葉数(枚)	(7月20日)	5.5	6.4	△ 0.9	5.8	6.4	△ 0.6
分枝数(本/株)	(7月20日)	2.1	2.6	△ 0.5	1.3	2.3	△ 1.0

注) 平年値は、前7か年中平成13年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

5) 小 豆 作 況：やや不良

事 由：6月下旬の平均気温は平年並であったが、7月上旬以降高温に推移したため、先月までの生育の遅れをかなり取り戻したが、主茎長、本葉数および分枝数は平年をやや下回っている。

以上のことから、目下の作況はやや不良である。

調査項目		エリモショウズ			サホロショウズ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
主茎長(cm)	(7月20日)	12.0	14.5	△ 2.5	11.6	13.7	△ 2.1
本葉数(枚)	(7月20日)	4.6	5.3	△ 0.7	4.7	5.2	△ 0.5
分枝数(本/株)	(7月20日)	0.2	0.8	△ 0.6	0.3	1.4	△ 1.1

注) 平年値は、前8か年中平成10年(最凶)、17年(最豊)および試験を中止した12年を除く5か年の平均。

6) 菜豆

作況：やや不良

事由：6月下旬の平均気温は平年並であったが、7月上旬以降高温に推移したため、先月までの生育の遅れをかなり取り戻したが、開花始は3日遅く、主茎長、本葉数および分枝数は平年をやや下回っている。

以上のことから、目下の作況はやや不良である。

調査項目		大正金時			福勝		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始	(月.日)	7.10	7.7	3	7.12	7.9	3
主茎長(cm)	(7月20日)	31.9	35.8	△ 3.9	30.8	36.4	△ 5.6
本葉数(枚)	(7月20日)	3.1	3.4	△ 0.3	3.3	3.6	△ 0.3
分枝数(本/株)	(7月20日)	3.0	4.1	△ 1.1	2.6	3.6	△ 1.0

注) 平年値は、前8か年中平成11年(最凶)、13年(最豊)を除く5か年の平均。。

7) ばれいしょ

作況：平年並

事由：開花始は「男爵薯」で平年より1日遅い7月1日、「コナフブキ」で1日早い6月29日とほぼ平年並であった。茎長は「男爵薯」では6月下旬の適度な降水と温度条件により生育が順調に進んで平年を3cm上回ったが、初期生育の遅い「コナフブキ」では7月上旬から中旬にかけての高温・早魃の影響を受け、平年より7cm下回った。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目		男爵薯			コナフブキ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始	(月.日)	7.1	6.30	1	6.29	6.30	△ 1
茎長(cm)	(7月20日)	40	37	3	62	69	△ 7
茎数(本/株)	(7月20日)	2.9	3.5	△ 0.6	3.1	2.9	0.2

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」は平成15(最凶)、17年(最豊)を、「コナフブキ」は平成14(最豊)、15年(最凶)を除く5か年の平均。

8) てんさい

作 況：やや不良

事 由：気温が高めに推移したうえに、7月中旬にまとまった降雨があったため、地下部の肥大は急速にすすみ、ほぼ平年並に回復した。しかし、地上部の生育量は依然として平年を下回っており、特に草丈は平年の80～85%である。

以上のことから目下の作況は「やや不良」である。

調査項目		移植						直播		
		モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較		平年	比較
草丈(cm)	(7月20日)	49.0	57.1	△ 8.1	44.8	54.7	△ 9.9	44.6	51.4	△ 6.8
生葉数(枚)	(7月20日)	21.0	21.9	△ 0.9	19.3	20.6	△ 1.3	19.7	19.9	△ 0.2
茎葉重(g/個体)	(7月20日)	545	695	△ 150	479	665	△ 186	380	492	△ 112
根重(g/個体)	(7月20日)	274	266	8	284	291	△ 7	126	130	△ 4
根周(cm)	(7月20日)	21.9	21.5	0.4	22.9	23.2	△ 0.3	17.0	16.9	0.1

注) 平年値は前7か年中、直播「モノホマレ」は平成11年(最凶)、16年(最豊)、移植「モノホマレ」は平成11年(最凶)、17年(最豊)、「アーベント」は平成11年(最凶)、16年(最豊)をそれぞれ除く5か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作 況：やや良

事 由：5月下旬～6月上旬の降水量が平年より多かったことなどにより、6月23日に収穫した1番草は平年に比べ草丈が高く、乾物率が低く、乾物収量は平年比123%と多かった。しかし7月上旬の降水量が平年より少なかったことなどにより2番草の再生時の草丈は平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
被度(%)	2番草再生時	100	99	1
出穂期	(月.日)	6.23	6.17	6
出穂程度	1番草	4.0	6.1	△ 2.1
刈取日	1番草	6.23	6.18	5
倒伏程度	1番草	2.8	2.4	0.4
病害罹病程度	1番草	2.0	1.4	0.6
草丈(cm)	1番草	112	97	15
	2番草再生時	32	37	△ 5
生草収量(kg/10a)	1番草	3806	2696	1110
乾物率(%)	1番草	20.7	24.5	△ 3.8
乾物収量(kg/10a)	1番草	790	641	149

注) 平年値は前4か年の平均(耕種概要・調査項目が大幅に変更されたため)。

倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微～9:甚。病害は主に斑点病。

10) たまねぎ

作 況：やや良（参考）

事 由：6月下旬から7月中旬にかけて高温に経過したため生育は順調に進んでおり、「改良オホーツク1号」の肥大期は平年並の7月8日であった。「改良オホーツク1号」と「スーパー北もみじ」の草丈と葉鞘径は平年をやや上回っており、葉身生重、球生重も平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期 (月.日)	7.8	7.8	0		7.21	
草丈(cm) (7月20日)	73.3	70.0	3.3	79.7	74.4	5.3
生葉数(枚) (7月20日)	8.6	9.2	△ 0.6	10.7	10.2	0.5
葉鞘径(mm) (7月20日)	19.3	18.4	0.9	20.9	19.8	1.1
葉身生重(g) (7月20日)	109.9	85.5	24.4	134.5	105.2	29.3
球生重(g) (7月20日)	121.2	77.2	44.0	50.9	45.1	5.8

注) 平均値は、沖積土壌で試験を開始した平成15年から平成17年までの3か年の平均。